



第5章 都市基盤の整備

5-1 土地利用と景観の形成



担当課 農業振興課、都市計画課

主な関係課 防災・危機管理課、土木課、建築指導課、新里地域振興整備課、黒保根地域振興整備課

基本方針

持続可能な都市を形成するため、地域特性への配慮、自然環境との調和、災害に対する安全性の確保、良好な景観形成等を考慮しながら、総合的・計画的な土地利用を推進します。

目標指標	単位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
「土地利用と景観の形成」の市民実感度 ^{※1}	%	20.2 (2019年度)	—	調査の都度 向上	—	調査の都度 向上

現況と課題

- ◆桐生地区、新里地区、黒保根地区の3地区ごとに土地利用の現状が異なっているため、それぞれの特性を踏まえた土地利用が求められています。
- ◆中心市街地の空洞化が進行していることから、都市基盤や住環境の整備と、未利用の土地の有効利用を図る必要があります。
- ◆土地の実態を的確に把握し、地籍の明確化や地図（公図）の混乱が見られる地域の解消を図るため、国土調査を実施する必要があります。
- ◆災害に対する安全性を確保しつつ、郷土に対する誇りや愛着が持てるよう豊かな自然や歴史ある町並みなど固有の景観を生かした魅力ある景観づくりを行う必要があります。

※1 「土地利用と景観の形成」の市民実感度…市民の声アンケートの「桐生市は地域の特性を踏まえた、良好な景観のあるまちづくりができています」という質問に対して、「大いに感じる」と「やや感じる」を合わせた「感じる」と回答した人の割合。

施策の方向

1. 土地の有効利用

目標指標	単 位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
国土調査の進捗率【延べ】	%	23.89	24.29	24.49	24.69	24.89

施 策

- 適正な土地利用の推進
- 持続可能な都市の形成 **重点施策(総合戦略)**

2. 景観の形成

目標指標	単 位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
「景観講演会」の参加者アンケートの設問「景観等に関わる市の取り組みを知っているか」に対し、「知っている」と回答した人の割合	%	40.0	調査の都度向上	調査の都度向上	調査の都度向上	調査の都度向上

施 策

- 景観保全の推進
- 啓発活動の推進

主な関連計画

- ◇桐生市都市計画マスタープラン（2015～2025年）
- ◇桐生市コンパクトシティ計画（2019～2040年）
- ◇桐生市景観計画（2016年度～）
- ◇第2期桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略（2020～2024年度）

5-2 歴史まちづくりの推進



担当課 観光交流課、都市計画課

主な関係課



基本方針

歴史的町並みを後世に伝え継ぐため、先人の築いた歴史的建造物とそこに息づく人々の暮らしなどの活動が作り出す歴史的風致の維持・向上を図り、歴史的環境を生かしたまちづくりを推進します。

目標指標	単位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
「歴史まちづくりの推進」の市民実感度 ^{※1}	%	36.0 (2019年度)	—	調査の都度 向上	—	調査の都度 向上



現況と課題

- ◆市内に点在する歴史的資産の保存活用においては、歴史的風致維持向上計画に基づき、「重要伝統的建造物群保存地区^{※2}」を核とした総合的・一体的なまちづくりを推進し、地域の活性化につなげていくことが課題となっています。
- ◆「重要伝統的建造物群保存地区^{※2}」の町並みを継承していくため、歴史的建造物の保存・活用においては、保存計画の適正な運用と合わせ、住民同士の連携や保存団体の組織など、住民と行政が一体となった取り組みが必要となります。

※1 「歴史まちづくりの推進」の市民実感度…市民の声アンケートの「桐生市は重伝建地区をはじめとする歴史的まち並みを生かしたまちづくりが進んでいる」という質問に対して、「大いに感じる」と「やや感じる」を合わせた「感じる」と回答した人の割合。

※2 重要伝統的建造物群保存地区…市町村が条例などにより、歴史的な建造物や町並み、またそれらと一体となっている環境を保存するために都市計画で決めた伝統的建造物群保存地区のうち、文化財保護法の規定に基づき、特に価値が高いものとして国が選定したものの。

施策の方向

1. 歴史的風致を活用したまちづくりの推進

目標指標	単 位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
伝統的建造物の修理棟数【延べ】	棟	25	26	27	28	29

施 策

1. 歴史的風致を活用したまちづくりの推進

重点施策(総合戦略)

2. 歴史まちづくりの整備

目標指標	単 位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
歴史的風致形成建造物の指定件数【延べ】	件	3	6	9	12	15

施 策

1. 歴史まちづくりの整備

重点施策(総合戦略)

主な関連計画

- ◇桐生市歴史的風致維持向上計画（2017～2026年度）
- ◇第2期桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略（2020～2024年度）



重要伝統的建造物群保存地区の町並み

5-3 道路交通網の整備



担当課 都市計画課、土木課、建築指導課

主な関係課 新里地域振興整備課、黒保根地域振興整備課



基本方針

産業、観光、経済等の発展と安全かつ円滑な道路交通を確保するため、本市と首都圏をつなぐ高速道路網へのアクセス道路や都市間および都市内の骨格を形成する幹線道路、さらに市民の生活を支える生活道路の整備に取り組みます。

目標指標	単位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
「道路交通網の整備」の市民実感度 ^{※1}	%	24.7 (2019年度)	—	調査の都度 向上	—	調査の都度 向上



現況と課題

- ◆高速道路網を生かすため、北関東自動車道へのアクセスの向上を図ることが課題となっています。
- ◆都市間の連絡強化や災害時における交通機能を確保するとともに、市街地内の主要な路線・交差点の渋滞解消を図るため、周辺都市と連携した一体的な道路交通体系の確立が課題となっています。
- ◆橋や道路施設等を長寿命化し、安全性の確保と補修費用等を抑制した維持管理を行っていくことが課題となっています。
- ◆狭あい道路や道路の危険箇所等の解消を図るとともに、道路空間と沿道空間の一体性に配慮した良好な景観形成や街路樹の維持管理、ユニバーサルデザイン^{※2}の導入が求められています。

※1 「道路交通網の整備」の市民実感度…市民の声アンケートの「桐生市は市中心部や周辺都市へ快適にアクセスできる道路網が整っている」という質問に対して、「大いに感じる」と「やや感じる」を合わせた「感じる」と回答した人の割合。

※2 ユニバーサルデザイン…障がいの有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいように、施設や製品などをデザインすること。



施策の方向

1. 幹線道路網の整備

目標指標	単 位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
都市計画道路の整備率【延べ】	%	47.2	47.5	47.6	47.7	47.8

施 策

1. 北関東自動車道へのアクセス道路の整備 **重点施策(総合戦略)**
2. 幹線道路の整備 **重点施策(総合戦略)**

2. 生活道路網の整備

目標指標	単 位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
狭あい道路の整備工事が所数	か所	37	40	40	40	40
橋梁長寿命化の修繕件数【延べ】	橋	27	31	33	35	38

施 策

1. 生活道路の整備
2. 人と環境にやさしい道づくり
3. 道路の適正管理



主な関連計画

- ◇ 桐生市都市計画マスタープラン（2015～2025年）
- ◇ 桐生市橋梁長寿命化修繕計画（2012年度～）
- ◇ 桐生市景観計画（2016年度～）
- ◇ 第2期桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略（2020～2024年度）

5-4 公共交通体系の充実



担当課 広域連携推進室、新里市民生活課、黒保根市民生活課、黒保根地域振興整備課

主な関係課 都市計画課



基本方針

市民の移動手段を確保するとともに、鉄道駅周辺をはじめとする地域拠点の活性化を目指し、鉄道や路線バス等の乗合旅客のほか、有償運送や新たな移動手段による利用者の利便性の向上を図りながら、将来にわたって持続可能な公共交通体系の構築を図ります。

目標指標	単位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
「公共交通体系の充実」の市民実感度 ^{※1}	%	14.7 (2019年度)	—	調査の都度 向上	—	調査の都度 向上



現況と課題

- ◆ 少子高齢化に伴い、利用者の大半を占める学生の減少が見込まれる中、鉄道の安定した運行維持のためには、広域的な視点からの利用促進や駅および周辺施設などの利便性の向上を図っていくことが重要な課題となっています。
- ◆ 路線バスおよびデマンドタクシー^{※2}を持続可能な公共交通として維持していくために、運行体系の更なる効率化や利便性の向上を図るとともに、自家用車への全面依存から公共交通を併用していくことについて、利用者側への理解と実現に向けた啓発が必要になります。また、バス停までの移動が不便な人に対する課題解決などの調査・研究を引き続き進め、新たな移動手段の確保を図る必要があります。

※1 「公共交通体系の充実」の市民実感度…市民の声アンケートの「お住まいの地区の公共交通（鉄道やバス）は利便性が良い」という質問に対して、「大いに感じる」と「やや感じる」を合わせた「感じる」と回答した人の割合。

※2 デマンドタクシー…電話で事前予約し、利用者の要望に合わせて自宅などの希望する場所まで迎えに行き、目的地まで乗り合いで運行する公共交通サービス。



施策の方向

1. 鉄道利用の促進

目標指標	単 位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
市内17駅の1日平均乗降者数	人	14,673	14,800	14,800	14,800	14,800

施 策

1. 鉄道利用の促進 重点施策(総合戦略)

2. バス交通網の充実

目標指標	単 位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
人口1人当たりのバス交通の年間利用回数	回	3.55	3.55	3.55	3.55	3.55

施 策

1. バス交通網の充実 重点施策(総合戦略)



主な関連計画

- ◇ 桐生市コンパクトシティ計画（2019～2040年）
- ◇ 第2期桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略（2020～2024年度）



おりひめバス

5-5 住宅対策の推進



担当課 建築住宅課、定住促進室、黒保根地域振興整備課

主な関係課 新里地域振興整備課



基本方針

人口の流出を抑制し、市民の住宅ニーズに合った住まいの供給を確保しつつ、若い世代の定住化を促進するため、住宅対策を推進します。

目標指標	単位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
「住宅対策の推進」の市民実感度※1	%	26.2 (2019年度)	—	調査の都度 向上	—	調査の都度 向上
空き家の解消件数	件	100	100	100	100	100



現況と課題

- ◆住環境の整備に当たっては、若い世代の定住化、高齢者、障がい者や子育て世代等への支援、環境への配慮などに留意しながら進めていく必要があります。
- ◆空き家の増加はまち全体の活気を失わせるだけでなく、治安・防犯面からも問題となるため、利活用や除却も含めた適切な対応を進める必要があります。
- ◆移住・定住の促進を図るため、桐生地域の特徴に応じた桐生暮らしの魅力の発信とともに、多様化する移住希望者のニーズを受け止め、地域に橋渡しできる支援体制づくりが課題となっています。

※1 「住宅対策の推進」の市民実感度…市民の声アンケートの「桐生市は住み続けたい生活の場としての住環境が整っている」という質問に対して、「大いに感じる」と「やや感じる」を合わせた「感じる」と回答した人の割合。



施策の方向

1. 住環境の整備

目標指標	単 位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
高層の市営住宅の耐震改修件数	棟	0	0	1	0	1
「特に著しい損傷」の空き家 ^{※2} の減少件数	件	10	10	10	10	10

施 策

- 市営住宅の整備 重点施策
- 空き家・空き地対策の推進

2. 移住・定住の促進

目標指標	単 位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
移住・定住に関する相談件数	件	172	172	172	172	172
空き家・空き地バンク ^{※3} の成約件数	件	44	44	44	44	44

施 策

- 移住・定住の促進 重点施策(総合戦略)



主な関連計画

- ◇桐生市住宅マスタープラン（2011～2020年度）
- ◇桐生市公営住宅等長寿命化計画（2020～2029年度）
- ◇桐生市空き家等対策計画（2018～2022年度）
- ◇第2期桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略（2020～2024年度）

※2 「特に著しい損傷」の空き家…本市が2016年度に実施した空き家の実態調査において、老朽度が5段階評価で最高となる「レベル5（特に著しい損傷）」と判定された空き家。

※3 空き家・空き地バンク…空き家・空き地の売買・賃貸を目的として、所有者の申し出に基づき、物件情報を市ホームページに登録・公開し、空き家等を探している人に紹介する仕組み。

5-6 公園・緑地の整備



担当課 公園緑地課

主な関係課 都市計画課



基本方針

緑豊かなまちを形成するため、地域住民との協力・連携等により、安全で快適な公園利用の充実を図るとともに、都市公園^{※1}などの緑化を推進します。

目標指標	単位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
「公園・緑地の整備」の市民実感度 ^{※2}	%	41.3 (2019年度)	—	調査の都度 向上	—	調査の都度 向上



現況と課題

- ◆都市公園^{※1}の管理については、市民の相互交流をより一層促進する場となるよう、ボランティアの協力を得ながら市民に愛される公園づくりや老朽化した公園施設の整備・改修を進める必要があります。
- ◆良好な市街地空間の創出のため、公共空間のみならず民間施設や民有地の緑化についての取り組みも求められています。

※1 都市公園…国、都道府県、市区町村が設置した公園。

※2 「公園・緑地の整備」の市民実感度…市民の声アンケートの「お住まいの地区には安全で快適に利用できる公園や、緑地が整備されている」という質問に対して、「大いに感じる」と「やや感じる」を合わせた「感じる」と回答した人の割合。



施策の方向

1. 公園の充実

目標指標	単 位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
市民1人当たりの都市公園 ^{*1} の敷地面積	m ² /人	8.48	8.78	8.95	9.13	9.31

施 策

1. 公園の充実
2. 協働による公園管理

2. 緑化の推進

目標指標	単 位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
緑化推進大会 ^{*3} の参加者数	人	150	150	150	150	150

施 策

1. 緑化の推進



主な関連計画

◇ 桐生市都市計画マスタープラン（2015～2025年）



梅田台緑地公園

※3 緑化推進大会…市民の緑化思想の高揚を図るため、秋の緑化推進月間（10月）において、緑化功労者や団体、緑と花のポスター入賞者の表彰を行う大会。

5-7 水道水の安定供給



担当課 水道総務課、工務課、浄水課

主な関係課



基本方針

安全・安心な水質の水道水を安定供給するため、水道事業経営の更なる健全化・効率化を図りながら、水道施設の戦略的な維持管理・更新等を推進します。

目標指標	単位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
「水道水の安定供給」の市民実感度※1	%	90.8 (2019年度)	—	調査の都度 向上	—	調査の都度 向上
給水区域内普及率	%	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9



現況と課題

- ◆全国的に水に対する安全性への関心が高まっており、より信頼性の高い水質検査が求められています。
- ◆人口減少に伴い水需要の減少が見込まれる中、施設更新の際には、ダウンサイジングなどの施設規模の適正化を図る必要があります。
- ◆老朽化した諸施設の適正管理を行うとともに、災害時等の応急給水・応急復旧体制を確立する必要があります。
- ◆将来にわたって水道事業を安定的に運営するため、経営の効率化や財政の健全化など経営基盤強化に取り組む必要があります。

※1 「水道水の安定供給」の市民実感度…市民の声アンケートの「お住まいの地区はいつでも安心して水道が使える」という質問に対して、「大いに感じる」と「やや感じる」を合わせた「感じる」と回答した人の割合。



施策の方向

1. 適切な水質管理

目標指標	単 位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
水質基準項目の自己検査の割合	%	100	100	100	100	100

施 策

1. 適切な水質管理

2. 上水道施設の整備

目標指標	単 位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
有効率 ^{※2}	%	84.3	87.6	88.1	88.6	89.1

施 策

1. 上水道施設の整備 重点施策
2. 災害・事故対策の強化

3. 企業経営の健全運営

目標指標	単 位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
上水道会計の経常収支比率 ^{※3}	%	118.5 (2017年度)	104.8	99.6	92.9	89.8

施 策

1. 企業経営の健全運営 重点施策



主な関連計画

- ◇ 桐生市水道再生マスタープラン（2006～2025年度）
- ◇ 桐生市水道事業経営戦略（2018～2027年度）

※2 有効率…配水量に対する有効に使われた水量の比率。

※3 上水道会計の経常収支比率…水道事業における経常収支比率は経常費用に対する経常収益の割合を表すもので、この比率が高いほど経常利益率が高いことを表し、100%未満であることは経常損失が生じていることを意味する。なお、目標値については、「桐生市水道事業経営戦略」において、今後の施設・設備投資および財源の見通しの試算を行い、100%を下回ることは避けられない状況が予測されていることを踏まえ、目標数値を設定した。100%を下回る場合は、内部留保資金でその差を補填するとともに、収支ギャップ解消のための施策を実施し、改善に努める。

5-8 汚水・雨水の適正処理



担当課 清掃センター、新里地域振興整備課、下水道課、境野水処理センター

主な関係課 都市計画課、新里市民生活課、黒保根市民生活課



基本方針

生活環境の向上と公共用水域^{※1}の水質保全を図るため、適切な汚水・雨水処理と健全な下水道事業を運営します。

目標指標	単位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
「汚水・雨水の適正処理」の市民実感度 ^{※2}	%	83.1 (2019年度)	—	調査の都度 向上	—	調査の都度 向上
汚水処理人口普及率	%	97.0	97.6	97.7	97.8	97.9



現況と課題

- ◆公共下水道の未整備地区の整備については、将来的な人口減少や投資効果を検証し、公共下水道と合併処理浄化槽^{※3}との汚水処理のベストミックスの検討や、事業計画区域の見直し等が必要です。
- ◆汚水処理施設については、老朽化が進んでおり、早急にストックマネジメント計画^{※4}を策定し、適正で効率的な施設管理を行う必要があります。
- ◆雨水対策については、河川管理者等とより一層連携を図りながら、浸水地域の解消に努める必要があります。
- ◆公共下水道事業の健全運営のため、事業の優先順位を定めるなど、事業費の平準化を図る必要があります。

※1 公共用水域…水質汚濁防止法によって定められる、公共利用のための水域や水路のこと。
 ※2 「汚水・雨水の適正処理」の市民実感度…市民の声アンケートの「お住まいの地区は下水道や浄化槽などが整備され、快適に暮らすことができる」という質問に対して、「大いに感じる」と「やや感じる」を合わせた「感じる」と回答した人の割合。
 ※3 合併処理浄化槽…し尿（水洗トイレからの汚水）と、生活雑排水（台所・風呂などからの排水）を処理する浄化槽。
 ※4 スtockマネジメント計画…人口減少や施設の老朽化など経営環境の変化に対応していくため、下水道施設の維持管理や更新計画を網羅した、下水道事業全体を俯瞰した長期計画。



施策の方向

1. 汚水・雨水処理の推進

目標指標	単 位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
河川放流水の平均水質(BOD ^{※5})	mg/ℓ	15	15	15	15	15
下水道施設の老朽化対策の進捗率【延べ】	%	15.0	30.0	45.0	60.0	100

施 策

- 環境衛生の充実
- 処理施設の整備 重点施策

2. 下水道事業の健全運営

目標指標	単 位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
下水道会計の経常収支比率 ^{※6}	%	68.0 (2017年度)	93.0	92.6	93.3	94.3

施 策

- 下水道事業の健全運営



主な関連計画

- ◇桐生市コンパクトシティ計画（2019～2040年）
- ◇桐生みどり地域循環型社会形成推進地域計画（2018～2022年度）

※5 BOD…水中の微生物が有機物を分解するときに必要な酸素量（生物化学的酸素要求量）のことで、数値が大きいほど水質は悪くなる。「群馬県的生活環境を保全する条例施行規則」では排水基準 25mg/ℓ以下とされており、本市では現状の 15mg/ℓ以下を目標値として設定。

※6 下水道会計の経常収支比率…水道事業における経常収支比率は経常費用に対する経常収益の割合を表すもので、この比率が高いほど経常利益率が高いことを表し、100%未満であることは経常損失が生じていることを意味する。

5-9 水と緑の保全



担当課 環境課、林業振興課、土木課、公園緑地課、黒保根地域振興整備課、水道総務課

主な関係課 新里地域振興整備課



基本方針

森林、清らかで豊富な水、清々しい空気を背景とした水源都市の実現を目指し、森林の整備をはじめ、水源のかん養^{※1}の適切な管理や河川・水路の整備等、住民参加による自然環境保全に取り組めます。

目標指標	単位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
「水と緑の保全」の市民実感度 ^{※2}	%	80.8 (2019年度)	—	調査の都度 向上	—	調査の都度 向上
本市総面積に占める森林面積の割合	%	73.0	73.0	73.0	73.0	73.0



現況と課題

- ◆本市は、水源都市として下流地域へきれいな水を流す責務があり、水源のかん養^{※1}である森林保全やカッコソウ^{※3}をはじめとする希少植物の保全を含めた自然環境保全の取り組みが求められており、自然保護意識の普及啓発、企業や団体をはじめとした森林水源ボランティアの育成が重要になっています。
- ◆市内には一級河川や市管理の水路が多く流れており、それらの砂防堰堤^{※4}・堤防・水路の整備については、大災害に備えて、市民の理解と地権者の協力を得ながら、国や県に積極的に事業促進を働きかけ、計画的に進めていくことが求められています。

※1 水源のかん養…森林に降った雨や雪などの降水が土壌に浸透し、地下水となりゆっくり流れ出ること、洪水や濁水が緩和されたり、水質が浄化されること。
 ※2 「水と緑の保全」の市民実感度…市民の声アンケートの「桐生市の自然環境は良い」という質問に対して、「大いに感じる」と「やや感じる」を合わせた「感じる」と回答した人の割合。
 ※3 カッコソウ…世界で桐生市・みどり市周辺の山地のみに自生するサクラソウ科の植物。絶滅の可能性が高いことから、2012年5月に「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種に指定されている。
 ※4 砂防堰堤…河川の土砂災害を防止する目的で河川上流部に設置され、下流の河川への土砂の流れ込みを防ぎ、土石流などを食い止める役割を担う施設。



施策の方向

1. 水源・河川等の保全

目標指標	単 位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
河川・水路整備か所数	か所	23	40	40	40	40

施 策

1. 水源の保全
2. 河川・水路の整備

2. 森林の保全

目標指標	単 位	基準値	目標値			
		2018年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
自然観察の森で実施する観察会の参加者数	人	1,600	1,500	1,500	1,500	1,500
森林整備ボランティア活動に関する協定を結んだ森林面積【延べ】	ha	33.6	36.1	38.6	41.2	43.7

施 策

1. 自然保護意識の普及・啓発活動の推進
2. 森林ボランティアによる森林保全整備の促進
3. 森林の公益的機能の保全



桐生川上流

